

年齢	26	歳	性別	男	工人	初診	1989.3.18	作成日	2023.6.2
主訴	鼻塞（鼻づまり）、流濁涕（鼻汁が流れ出る）、頭痛 10 年余り続いている。								P.5
病史	10 年前に感冒に罹り、それが長く治癒せず今に至っている。感冒に罹るたびに症状が重くなって来た。この病気を治すため各種の西洋薬や中薬を服用したが、どちらにも顕らかな効果はなかった。現在は鼻塞、頭痛があり、膿のような鼻汁が流れ、嗅覚障害がある。飲食や睡眠は正常。								
四診所見 (検査)	【望診・聞診・問診・切診】 ①鼻塞 ②流濁涕 ③頭痛 10 余年 ④嗅覚障害 ⑤神志清楚 ⑥思惟、反応は敏捷 ⑦面色正常 ⑧X線検査：両側上顎洞密度増高、粘膜増厚、骨壁は整っている								
舌診	① 舌質：紅 ② 舌苔：薄黄								
脉診	脉：沈濡								
病位弁証	【五臓：肝・心・脾・肺・腎】【六腑：胆・小腸・胃・大腸・膀胱】【奇恒之腑：脳・隋・骨・脉・女子胞・命門・精室】								
八綱弁証	【表証・裏証・半表半裏証】【寒証・熱証】【虚証・実証】【陰証・陽証】								

病性弁証	<p>【氣病弁証】氣虛・氣陷・氣滯・氣逆（肺氣・胃氣・肝氣）・氣隨血脫・氣虛失血・氣血兩虛</p> <p>【血病弁証】血虛・血熱・血瘀・氣滯血瘀</p> <p>【津液不足弁証】</p> <p>【津液病弁証】</p>
病因弁証	<p>【六淫弁証】風・寒・暑・濕・燥・火</p> <p>【七情弁証】喜・怒・憂・思・悲・恐・驚</p> <p>【飲食勞倦弁証】傷食・中毒・過勞・過逸</p>
病機	
証名	
弁証分析	
主要な弁証類型	<p>【中医数学診斷学 組】</p> <p>【中医症状鑑別診斷学】</p>
治則治法	
配穴処方	
処方意義 (按語)	